

実践!田起こし

三重県内の田んぼでは、夏の高温、日照不足、台風の到来などにより、白未熟粒や収穫期の倒伏が発生し、米の品質低下が問題となっています。

そこで、現在、県内では、三重県産米を食べるすべての方が「おいしい!」を感じてもらうために“良質米づくり運動”に取り組んでいます。

元気な稻を育てるために、まずは秋や冬に“田起こし”に取り組みましょう。“田起こし”することで、田んぼの持つ力を向上させ、稻が活き活き育ちます。

皆で、おいしいお米を作りましょう。

ポイント 1

秋は浅めに耕し稻わらのすき込みや堆肥などの散布を!!

地温が高い初秋に田起こしを行うことで、稻わらの腐熟が進み、ケイ酸等の成分が田に還元され、稻の初期生育が促進されます。

あわせて、堆肥やもみ殻などの有機物を散布して地力を維持しましょう。

秋の 田起こし



ポイント 2

冬は深く耕そう!!

深く(15cm程度)耕すことで根の張りが良くなり、夏の暑さや干ばつに負けない稻に育ちます。収量や品質の向上に繋がります。

冬の 田起こし



秋

浅く耕し、稻わらや堆肥で地力を維持!!



Q：どうやって田起こしするの？

A：稻わらの分解には酸素が必要なため、初秋は5~10cm程度の浅めが望ましいです。

Q：すき込むだけでいいの？

A：稻わらをすき込むことで、ケイ酸や窒素を補給できますが、それだけでは不足します。もみ殻や土壤改良材、堆肥などをバランスよく投入してください。地力の維持や土壤構造の改善により、白未熟粒や倒伏の軽減などの効果が期待できます。



ジャンボタニシ対策も!!



Q：ジャンボタニシにも効果があるの？

A：ジャンボタニシは土中で越冬します。車速をゆっくりにし、ロータリーの回転速度は速く浅めに耕すことで殻を物理的に破碎し、発生を抑えることができます。

冬

深く耕し根張りを促進!!



Q：どうやって田起こしするの？

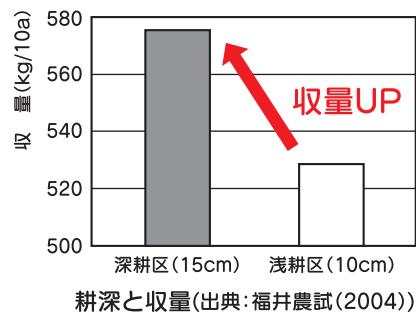
A：作土深15cmを目指すには、ロータリーの回転速度をゆっくりにすることがポイントです。また、深耕用機械の導入(プラウによる深耕)も効果的です。なお、現状の作土深が浅い圃場の場合は少しずつ(毎年1~2cm)深くしてください。また、礫や石が多い圃場は、水持ちが悪くなる等の影響があるため深耕できない場合があります。



両区の根重(乾物重)		
	土壤の深さ(cm)	全重(g)
	~10	10~20
深耕	3.87	0.81
普通耕	3.72	0.63
		4.68
		4.35

根張りの促進

(出典:農業温暖化ネットHP (実験地:兵庫県 北部農業技術センター 2010))



土壤診断をやろう!

- 土壤診断を最低3年に1回は実施しましょう。
- 不足する成分を土壤診断により把握し、土壤改良材等を施用しましょう。
- 特にケイ酸成分が不足している圃場が多くなってきています。ケイ酸質資材を施用しましょう。